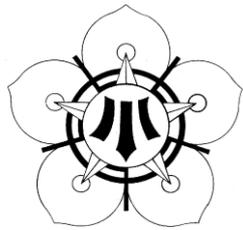


地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



# くさぶえ

福生市立福生第七小学校  
令和5年度 学校だより

福生第七小学校  
ホームページ  
URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 山岸 史子

令和6年3月1日 発行

## 心を交わす「あいさつ」

校長 山岸 史子

今年度最後の授業参観・保護者会にお越しくださり、ありがとうございました。この1年間、様々な場面でお力添えいただきました保護者・地域の皆様のお陰で、子どもたちがこの一年間で大きく成長できたことに、感謝申し上げます。

さて、言霊（ことだま）とか言い当てるなど、古くから、口にした言葉には単なる言葉としてだけではない力があると言われます。「噂をすればなんとやら」…などと、人の噂をしていると、その本人がひょっこり現れるなどというものも、言葉を放つことへの責任や戒めのようなものを含みつつ、言葉にすることのもつ力を表現したものかと思います。

それだけに、日頃、私たちが使っている言葉を振り返ると反省することも多くあります。同じ「気持ちを理解してほしい」という思いでも、言い方によっては全く反対の感情を相手にもたせてしまい、互いに嫌な思いになることもあります。あんなふうには言わなければよかった、こう思っていただけなのに…。これは使う言語に関わらず、世代、習慣、環境、これまでの生活経験などによって違う文化をもって生きている人間である限り、互いに理解して配慮を要するものです。

子どもたちも、まだ10年前後の生活経験とはいえ、そこに凝縮されたそれぞれの文化をもっています。家庭、幼稚園や保育園、学校や習い事など、様々な人と関わる中で、この言い方、伝え方で関係を築いてきています。それだけに、関わる私たち大人の言語感覚やものごしは、十分に意識してより望ましいものでありたいものです。

中でも、あいさつは最も多く交わされ、どのご家庭でも共通した意味合いで使っていることでしょう。これが身に付いていると、まずは人との関わりを温かいものにすることができると思います。おはよう始まり、おやすみなさいまでの一日を、何人の人とお互いを思っで温かいあいさつができるかで、幸福感も違う気がします。

私は、「行ってらっしゃい」「行ってきます」がすてきなあいさつだと思っています。「行って」＋「いらっしゃい」は行くことと帰ってくることのどちらにも無事を願う気持ちが込められていて、行くだけでなく帰ってきてくれることを案じて待つ気持ちが込められています。「行って」＋「来ます」は、行くことだけでなく、無事に帰ってくることを約束する思いが込められています。毎朝、こんな温かな思いの詰まった言葉を互いに掛け合うことができたなら、お互いを大切だと思えるに違いありません。これを受けて、戻った時に交わす「ただいま（帰りました）」や「お帰りなさい」もまた同じです。

あいさつは短い言葉ではありますが、相手を思う温かな気持ちや敬う気持ち、慈しむ気持ちが込められています。まずは大人の私たちが、そんな思いを意識して子どもたちに声をかけ、子どものあいさつに答えていきましょう。家族、学校、地域での温かい関係を結んでいくことが、大きな財産となること、間違いなしです。どうぞよろしく願いいたします。